

空飛ぶクルマの取り組みご紹介

2026年3月27日

Osaka Metro 空飛ぶクルマ推進室

1. 会社概要

- 当社の前身は大阪市交通局で、1903年（明治36年）から、大阪の発展に寄与することを目的に、その時々の最新技術を積極的に導入し、大阪市民の移動を支える交通ネットワークを整備してきました。
- 「人にやさしい交通機関」として、これまで培ってきた交通技術力と社会的使命を引き継ぎつつ、民間感覚を取り入れ、「交通を核にした生活まちづくり企業」に変革し、大阪が圧倒的に便利で快適な国際都市になることに貢献するため、地方公営企業から株式会社へと運営形態を変え、2018年に第二の創業の産声をあげました。

社名	大阪市高速電気軌道株式会社（Osaka Metro）		
本社所在地	大阪市西区九条南1丁目12番62号		
事業開始年月日	2018年4月1日		
代表者	代表取締役社長 河井 英明		
資本金	2,500億円		
従業員数	5,000人		
グループ連結損益	営業収益	2,029億円（2024年度決算）	
	営業利益	404億円（2024年度決算）	
交通事業（鉄道）	営業キロ	141.0km（2025年1月19日）	
	駅数	134駅（2025年1月19日）	
	在籍車両数	1,440両（2024年3月31日）	
	1日平均乗車人員	2,561,618人（2024年度決算）	

2-1. 都市型MaaS構想 (eMETRO) 概念図

当社では、事業成長戦略に基づく事業活動を全社を挙げて推進し、各種のサービスをお客さまに様々な局面において効果的にご提供するために、事業活動の階層を縦に重ね合わせ、**お客さま毎に一体的にご提供できる構造の構築**を目指しています。

これが、多くの施策を戦略的に進め、新たな成長の機会を獲得するために5層構造にまとめた「都市型MaaS構想 (eMETRO)」です。この構造に基づき、当社の**全ての事業活動の有機的な結合**を実現し、多くの企業と協業しつつ、各種のサービスを連携し発展させることで、お客さまに価値あるサービス・新たな価値を生み出し、単独では行えないような「**世界最高水準の都市交通機能および生活サービスが密接に融合したエコシステム**」を目指します。

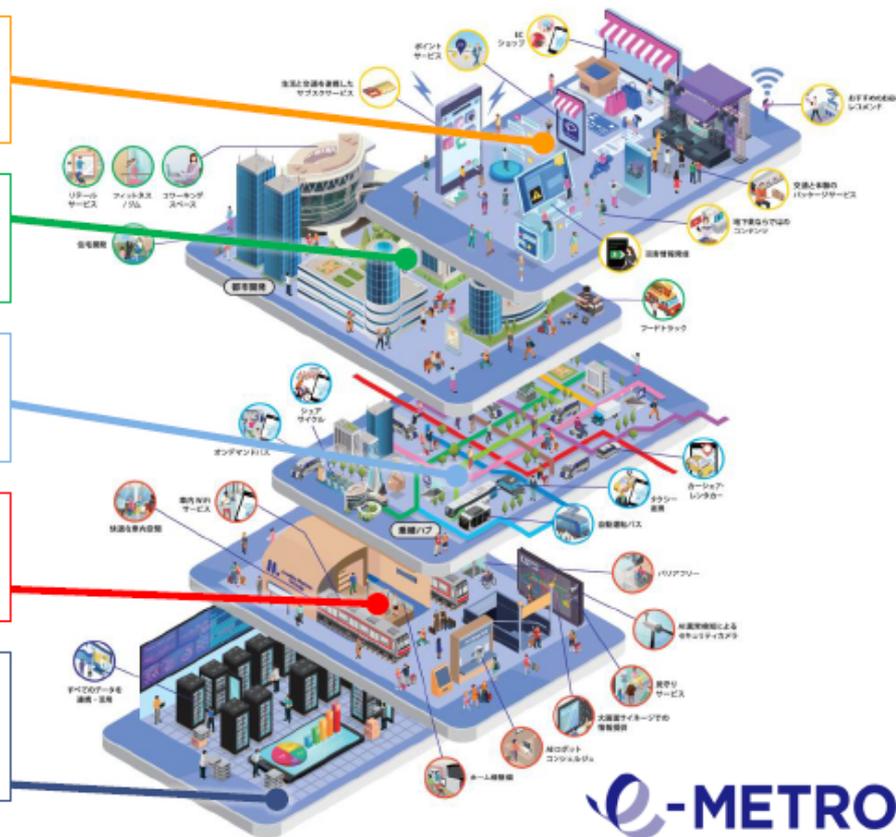
第4層 **サイバー空間での生活を豊かにするサービス**
顧客データを基に、お客さま一人ひとりへ直接届くサービスを多重的に積み上げる

第3層 **フィジカル空間での生活・都市機能の整備**
乗継ハブなどの交通結節点を拡充すると共に、駅・駅周辺での各種サービス・施設を展開

第2層 **自由自在な移動のパーソナル化**
多様な交通手段がシームレスにつながるように整備(小型モビリティまで広く揃える)

第1層 **最新技術でストレスフリーな移動**
着実な運行の維持および安全・安心と快適性・利便性の拡充を徹底する

第0層 **データの蓄積・分析・予測**
一人ひとりのニーズに直接応えると共に、情報の蓄積がサービスの改善・進化を加速させ生活の質の向上につながるよう、利用者の同意を得て、4層の事業活動全般における顧客データを厳格に一元管理



2-2. 2035年の未来像

当社は、2035年には交通サービスと様々な日常の生活サービスが完全に融合し、必要なサービスが迅速且つ一体的に提供され、現在では考えられないほど便利で多様なライフスタイルが実現している世界を目指しています。

そのためには、テクノロジーを大きく進化させ、新たなモビリティやサービスを整備する必要があると考えます。

5つの達成目標

日々の運行を支える
日常業務と徹底した
合理化・効率化

世界に誇る
地下空間

圧倒的に便利な
交通インフラ

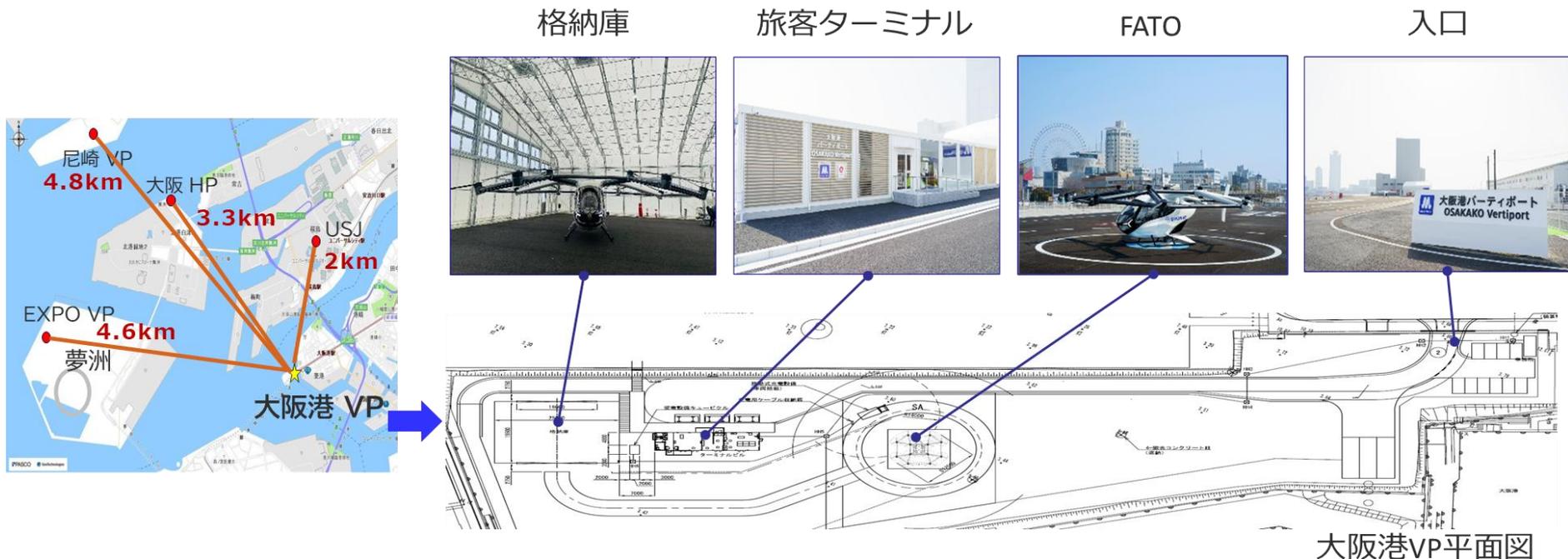
交通を核にした
地域開発

交通と
日常生活サービス
との完全融合



3-1. 大阪港バーティポートの概要

- 2025年大阪・関西万博を見据え、2024年1月に大阪市が実施した『『空飛ぶクルマ』会場外ポート事業者』の公募に選定され、2025年3月に大阪市港区（中央突堤）にバーティポートを整備しました
- 施設内には、空飛ぶクルマの整備などを行う格納庫、空飛ぶクルマの離着陸面、顔認証チェックインからモックアップへの搭乗までを体験できる旅客施設がある他、オンデマンドバスやシェアサイクルなどのモビリティとの結節点となる機能も備えています



竣工日	2025年3月28日（金）
住所	大阪府大阪市港区海岸通1丁目105番5 地内及び地先
最寄り駅	Osaka Metro中央線 大阪港駅（徒歩約10分）
各地との直線距離	USJ(入口) 2km、大阪ヘリポート 3.3km、夢洲VP 4.6km、尼崎VP 4.8km 八尾空港 16.5km、神戸空港 18km、関西空港 28.5km

3-2. 大阪港バーティポートでのデモフライト見学会

- 9月13日から23日の間で大阪港バーティポートでのデモフライト見学会を実施
- 9月13日は大阪市長、プレス等、9月14日は地元の港区民を対象にデモフライト見学会を実施
- 実施日は雨天でのフライト中止はなく、全17回中12回でフライト実施。合計で2,000名以上の方が来場



4-1. 社会受容性向上の取り組み 「空クルラボ」

- 2025年4月26日（土）より、空飛ぶクルマの社会受容性向上のため、大阪港パーティポートの格納庫内で、予約制のイベント「空クルラボ」を開催中
- 空飛ぶクルマの搭乗体験、VR体験、トークイベントなどのコンテンツを提供し、土・日・祝の午前・午後を実施しています
- 「空クルラボ」予約用にwebサイトを立ち上げ、予約を受け付けしており、地下鉄の車内広告等でPRを行っています



■ 交通広告（地下鉄車内）

とぶ!

Osaka Metro は
地下・地上から 空へ!

2028年を目途に大阪での空飛ぶクルマの商用運航開始をめざしています

新機体登場

空を走ろう、もっと自由に

■ 専用webサイト

空を走ろう、もっと自由に

空クルラボ2025

空クルラボでできること

お知らせ

coming soon coming soon coming soon

空クルラボ 専用WEBサイトURL
<https://advanced-air-mobility.osakametro.co.jp/>

5-1. ポスト万博の取組み

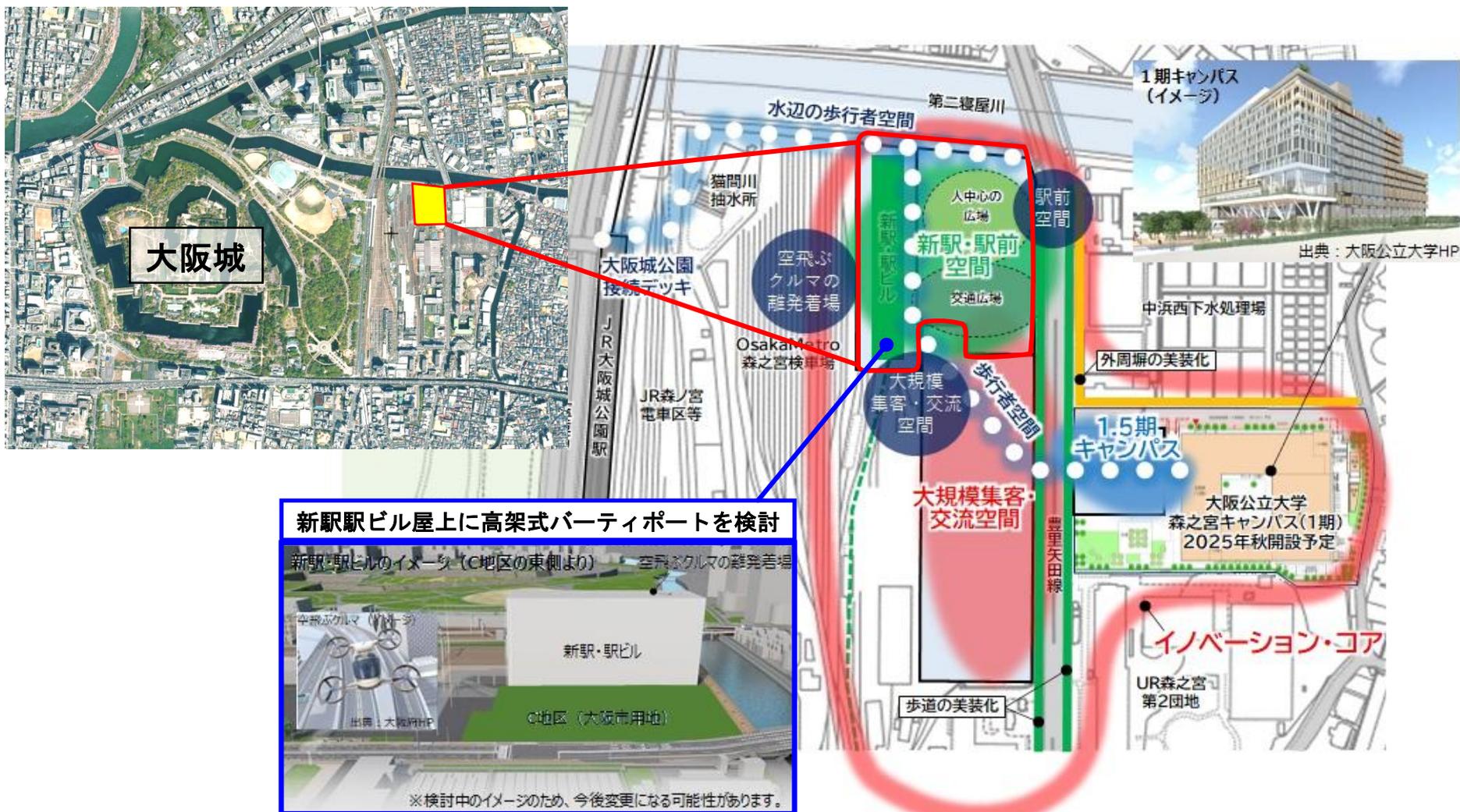
「大阪ダイヤモンドルート構想」を発表

大阪・関西万博後の空飛ぶクルマの社会実装を見据え、「新大阪・梅田」「森之宮」「天王寺・阿倍野」「ベイエリア」の4つのエリアを重要エリアとして選定し、それぞれを結んだ「大阪ダイヤモンドルート構想」として、2024年12月17日にSkyDrive 社が「大阪ラウンドテーブル」で発表し、弊社と両名でプレスリリース
2028年を目途に森之宮エリアでサービスを開始し、2030年以降に向けて、サービスを順次拡大することを目指す



5-2. 森之宮エリアにおける検討

- 「森之宮エリア」では、Osaka Metroが建設する森之宮新駅の駅ビル屋上にパーティポートの設置を予定



大阪府HP「大阪城東地区」について：〔1.5期開発の土地利用・基盤整備の方針〕より

5-3. 森之宮新駅・駅ビル、駅前空間のデザインパース

新駅設置により、大阪市域の東西軸である中央線の強化及び新駅周辺の開発を促進するとともに、当社が推進している都市型 MaaS 構想の具現化に向け、未来型の駅と大規模なVポートを備えた駅ビルを一体的に開発し、未来の駅のイメージを彷彿させる「都市内における地下・地上・空・水上の全ての移動サービスがつながった大阪における本格的なモビリティのベストミックス化の結節点の確立」を目指していきます



2025年9月4日公表 Osaka Metro HP「大阪城東地区1.5期開発における新駅・駅ビル、駅前空間の開発の推進について」より

5-4. 大阪港バーティポートからの新たな取り組み

- 2026年3月7日、株式会社Soracleと大阪港バーティポートを活用した空飛ぶクルマの商用運航開始への取り組み及び社会受容性向上施策の協働推進に関する基本合意書を締結
- 2026年3月8日から25日の間、空クルラボ特別企画として日本航空株式会社、住友商事株式会社が2025年大阪・関西万博で提供し、好評を博したイマーシブシアター「SoraCruise」を期間限定で再公開

■ Soracle社との基本合意書締結式



■ ～万博の感動を再び～ イマーシブシアター「SoraCruise」



■ 主な合意内容

- 空飛ぶクルマの商用運航開始への取り組み
 - 大阪港バーティポートを拠点とした商用運航の開始に向けた共同推進
 - 上記に必要な施設、設備の設置検討
- 社会受容性向上施策の協働推進
 - 認知拡大、社会受容性の向上に向けたイベントの共同開催
 - デモフライトの実施検討

6. 空飛ぶクルマ事業の実現に向けて貢献できること

空飛ぶクルマ事業における課題と、その解決に向けて弊社が貢献出来ることは以下のとおりです。

1. バーティポートの建設、設置における要件や課題の共有

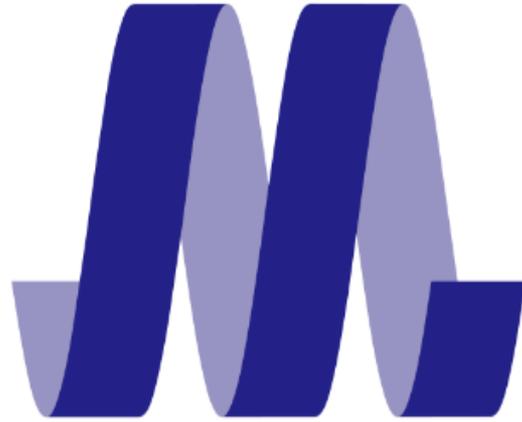
弊社は他事例と比較しても早期の段階でバーティポートの設置、管理を行っており、大阪港バーティポートでは2025年夏にSkyDrive社によるデモフライトを実施しています。また、現在森之宮エリアでの高架式バーティポートも建設予定であり、検討を進めています。それらの経験から今後本格的な商用運航を見据えて、現状の課題や具体的な方策等の提案ができると考えております。

2. 出発地とバーティポート及び目的地とバーティポート間の移動の補完

弊社は直営での鉄道事業、バス事業、タクシー事業を営んでいることや、レンタル電動自転車・キックボードとの提携も実施しており、交通分野での幅広い知見を持っており、MaaSとしての観点での空飛ぶクルマと2次交通を繋げる点において大きな貢献ができると考えます。

3. お客様の空飛ぶクルマを利用する際のUI/UX体験

弊社は前項の事業に加えて、スマートフォンアプリ等での鉄道・バスチケットの販売やオンデマンドバスの予約・決済、改札を始めとした顔認証サービスの提供を実現しており、お客様が空飛ぶクルマを利用する際のシステム面における実装やUI/UXの具体化について貢献できると考えております。



**Osaka Metro
Group**